

文部科学省「国際協カイニシアティブ」  
平成20年度教育協力拠点形成事業  
第2回国内報告会（平成21年3月10日）

## 日本の大学における ESDへの取り組み —アンケート調査の結果—

名古屋大学大学院国際開発研究科  
北村 友人

### 日本の大学によるESD活動

#### ■ 大学によるESD活動の種類

- (1) 学部レベルでの教育
- (2) 教員養成、ESD関連の教材開発
- (3) 環境学分野における大学院教育・研究
- (4) サステナビリティ学分野における大学院教育・研究
- (5) 学外との連携： 地域社会におけるESD活動との連携  
国際協力事業の一環

■ 国内支援組織： 文部科学省、環境省、等

■ 国際支援組織： 国連大学、国連大学高等研究所、  
国連教育科学文化機関

## 日本の大学によるESD活動の現状 —アンケート調査の結果—

- 2008年12月から2009年2月にかけて実施
- 43大学の50部局・部門にアンケートを送付
  - 学部レベル: 23 部局・部門
  - 大学院レベル: 19 部局・部門
  - 学部+大学院レベル: 8 部局・部門
- 回答:
  - 学部レベル: 19 プログラム
  - 大学院レベル: 14 プログラム

## 学部レベルにおけるESD関連カリキュラム

- ESD関連科目: ESD、環境学、サステナビリティ学、環境教育、等
- 学部レベルでは主に3つの類型
  - 1) 教養科目・専門科目の一部としてESD関連科目を導入
  - 2) 新規科目と既存科目から構成されるESD関連の副専攻・サブ・コース  
→大学独自の認定証(ESDコーディネーター、ESDファシリテーター、ESD指導者、等)を授与しているプログラムもある。
  - 3) 環境システム工学、環境デザイン、サステナビリティ学等の分野でESD関連の部門を設置

## 大学院レベルにおけるESD関連カリキュラム

### ■ 大学院レベルでも主に3つの類型

- 1) 環境学分野等における既存の修士課程・博士課程の一部としてESD関連プログラムを設置
- 2) 全学あるいは複数部局にまたがる大学院生対象のESD関連プログラムを、修士課程の一部に設置
- 3) 環境学あるいはサステナビリティ学分野でESD関連の大学院を設置

→ESD関連の認定証やディプロマを授与している大学院もある。

## ESD活動に対する実施ならびに支援の体制

- ESD関連の全学的組織： 学部 11/19； 大学院 12/14
- ESD関連の教科・コースを担当する教員の専門分野  
学部： 社会科学系 (15/19)、環境学系(12/19)、工学系(11/19)  
大学院： 環境学系 (13/13)、社会科学系 (12/13)、工学系 (12/13)  
農学系 (11/13)
- 産学官民連携や地域社会との連携  
学部： フィールドワーク・フィールド調査 (14/19)  
実習・インターンシップ (14/19)、共同シンポジウム (10/19)  
大学院： フィールドワーク・フィールド調査 (13/13)  
実習・インターンシップ (11/13)、共同シンポジウム (8/13)  
共同研究・受託研究 (6/13)

## 他大学との連携

### ■ 国内の大学との連携

学部： 講師の招聘 (9/19)、共同シンポジウム (7/19)

基本的に、学生たちに実践的な学習機会を提供するための地域社会との連携の方が、大学間連携よりも活発。単位互換や共同学位はほとんどみられない。

大学院： 講師の招聘 (6/13)、共同研究 (6/13)、共同シンポジウム (4/13)

遠隔講義 (3/13)、単位互換 (3/13)

ほとんどすべての大学で何らかの国内大学間ネットワークを構築。

### ■ 海外の大学との連携

学部： フィールドワーク・フィールド調査 (5/19)、共同シンポジウム (3/19)  
共同研究 (3/19)

大学院： 共同シンポジウム (8/13)、共同研究 (7/13)、講師の招聘 (5/13)  
フィールドワーク・フィールド調査 (5/13)、研究員の交流 (5/13)  
遠隔講義 (4/13)

## ESD関連プログラムに対する学生の関心

### ■ 学部レベル

参加型・体験型の学習、実践性 (14/19)

地域性、地域の課題への着目、地域社会への貢献 (12/19)

### ■ 大学院レベル

国際性、地球的規模の課題への着目、国際社会への貢献(12/13)

学際性・文理融合的な性質 (9/13)

## ESD活動の実施における課題

- 学内におけるESDへの理解や認知、合意などの不足。
- 組織的な取り組みの不足 → しばしば個人の努力に依存。
- ESD関連プログラムへの専任教職員の不足(任期付ポスト等)
- 各部局・各プログラムによってESD関連カリキュラムが個別に整備され、部局間・プログラム間のコーディネーションが不足。
- 大学独自の財源が不十分→文科省・環境省などからの外部資金に依存(=持続性への不安)
- 他大学(国内・海外)との連携において、授業時間や評価システムが統一されていない。
- 海外の大学との連携において、しばしば相手側から日本の大学に対して費用の負担を期待されてしまう。
- 大学が発行するESD関連資格・証書に対する認知が広まらない。

## ESD活動への支援

- イニシアティブ等が終了した後の文科省・環境省などからのフォローアップが不明確。以下のような支援を期待。
  - 公的なESD関連の資格認定
  - 教材等の開発に対する支援
  - eラーニングシステムの構築に対する支援
  - 情報共有システムの構築
  - 産学連携への支援、等
- 国際機関との連携強化
  - 海外の大学とのネットワーク構築に対する支援
  - 途上国の大学との遠隔教育システム構築に対する支援
  - ESD関連の資格認定、等

### 今後のESD活動と国際協カイニシアティブへの期待

- 大学の国際的ネットワークの活用  
→ コミュニティや学校も、大学を通して世界と繋がる事が可能。
- 大学によるESD活動を、より幅広い教育改革や国際協力の文脈のなかに位置づけることの重要性。
- 貧困問題や格差問題など、国内ならびに海外のさまざまな課題を射程に入れたESD活動の充実。
- 環境学・サステナビリティ学以外の領域への拡充。  
→ 国際協カイニシアティブは幅広いテーマを採択。  
人文・社会科学領域のユニークな取り組みをハイライト。  
ESDの認知度を高めるためにも重要。

### 今後のESD活動と国際協カイニシアティブへの期待

- 学生の関心を高めるプログラムの構築  
→ 学部生の意識を国際的な視点にも向ける。  
大学院生の関心を活かした活動。  
とくに若手研究者・若手専門家の育成。
- ESD関連科目の実用的な教授法・教材の開発。
- 実践的学習(フィールドワーク等)のカリキュラム内の位置づけを明確化。
- 産学官民の連携強化

ご清聴ありがとうございました。

名古屋大学大学院国際開発研究科  
北村 友人  
E-mail: yuto@gsid.nagoya-u.ac.jp